

# 富士山！万歳！！

7月27日（日）～ 7月30日（水）

IN 静岡県立富士山麓山の村～元祖七合目山口荘

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発・作戦会議	作戦会議・買い出し	最終確認
2日目	富士山に向け出発	元祖7合目に向けて出発	山荘到着・仮眠就寝
3日目	山頂に向け出発・ご来光	5合目山下	振り返り
4日目	プールご褒美	関西に向け出発・解散	

**一日目：** 本日から3日間かけて富士山の頂を目指します。グループを形成せず、皆で話し、力を合わせ、自分達の力で登って行きます。京都で全員集合した後、バスに乗り込み、一路富士宮市へ！！道中で自己紹介、富士登山で何が必要で購入しないといけないかを話しました。浜名湖で昼食を挟み、富士ICを降り、近くのスーパーにて買い出しを行いました。自分達で考えた備品は思った以上に多く、メンバー皆不安を抱きながら宿泊施設に向かいました。施設に到着するとすぐに夕食の時間となりました。給食制なので、当番を決め、配膳を行いました。普段学校で給食当番をされている力がここで発揮され、スムーズに進みました。夕食はゲン担ぎで『カツカレー』を食べました。夕食後は、登山に対しての作戦会議を行いました。みんなで、持っていく必要なものはいったい何か？を議論しました。結果決まった荷物の多さに更に不安な様子でした。最後に我々スタッフから体験談及び、意気込みを伝え、明日に備えました。明日から富士登山が始まります。みんなは、無事に山頂で万歳が出来るのでしょうか？とても楽しみです。

**二日目：** 朝から緊張の一日が始まりました。朝食を済ませ、最後の荷造りを行いました。要るもの、要らないもの、みんなで確認しました。重たい荷物を背負い、出発の時です。お弁当をもらい、バスに乗り込み、五合目に到着しました。五合目にて体を慣らし、登山スタートしました。良い緊張の中、隊列を組んで登っています。途中何度か休憩を取り、その都度隊列の変更や、荷物の相談をしました。自然と掛け声も増え、友達の名前も飛び交いました。さすがに体力もなくなってきた、疲れが露わになってきたところに、元祖七合目が見え、宿泊する山荘に到着しました。到着次第、翌日の詰め替えを行い、夕食を済まし、明日に向けて話し合いをした後、就寝しました。出発は0時30分です。山頂でご来光を見ることが出来るのでしょうか？頑張れ、みんな！！

**三日目：** 夜中12時に起床し、眠たい意識を必死に起こしながら、出発の準備を行いました。昨晚の段階で、持っていくものと、置いていくものに分けていたので、比較的スムーズに準備が出来ました。トイレを済まし、出発の時です。メンバーは誰も、夜中に登山をしたことがないため、不安の様子がありました。しかし、一人一人のモチベーションは高く、声かけや荷物を持つなど、助け合い、支え合って登りました。特に声かけは「頑張れー！！」はもちろんのこと、声が出ていないメンバーに「もっと声を出そうよ！！」と士気を高める声かけがありました。八合目を越え、九合目、九合目五勺を越え、4時20分に十合目に到着しました。ご来光を見る為に、場所をスタンバイし、ついに4時48分、念願のご来光を見ることができました。感動は凄まじく、皆言葉を失いました。寒さと達成感が皆の心を満足させてしまい、頂上を目指さず下山しました。山を下りていくにつれ、太陽は上がり、気温も上がってきたので、みんなの表情にようやく笑みが出てきました。山荘からもらった行動食を食べ、お腹を満ちし、元気よく賑やかに下山しました。そして、ついに登り始めた五合目に帰ってきました。感動が大きいかと思いましたが、それ以上に疲労が大きく、帰りのバスに乗るなり、皆寝てしまいました。帰りにお土産を購入し、施設に帰ってくると、もう夕飯前になっており、着替えや洗面などを済ますと、夕食の時間になりました。夕食を済ますと、最後の振り返りを行いました。キャンドルライトの中で、今まで撮影した写真のスライドショーを鑑賞しました。忘れていた想いや気持ちが蘇ってきたのでしょうか、途中からみんな黙って真剣に写真を観ていました。鑑賞後、富士山を登っての感想を言いました。新しい自分の発見や、改めて分かった自分、友達のありがたみや、頼りがい、自然の素晴らしさなど、一人ずつ想いある限り話しました。

**四日目：** 朝早くから朝食に清掃にとダタバタしていました。朝食の配膳も慣れた手付きで次々と盛り付け、自然と声をかけ合い役割を振り分けている姿から、キャンプを通して成長されている様子を伺えました。清掃も「終わったよ！次どこやればいい？」と自分達から積極的に動き、施設の方から褒めていただけるほど、キレイにすることができました。施設にお別れを告げた後は、みんなが初日から楽しみにされていたご褒美の『市民プール』です。富士山の疲労をもとせず、時間いっぱい存分に楽しまれ、笑顔が沢山見られました。プールで存分に楽しんだ後、関西に戻る途中、最後のお土産購入時間を設けました。3日目に買い足りなかったのか、ここでも「～の為に！」と言いながら、選んでおられました。帰りの車内も、他愛のない話から、キャンプの思い出話まで、終始飽きることなく話しました。京都に到着前に、みんなに『一緒に富士山を登った友へメッセージ』を書いてもらいました。そこには「ありがとう」という感謝の言葉が沢山ありました。京都に到着し、各集合場所へと向かいました。富士山を共に登った仲間と別れました。また来年、一緒に登れる事を楽しみにしています。みんな！本当にありがとうございました！！

## <キャンプ総括>

富士山は、ただ『登る』という単純なプログラムの中で、あらゆる過程があり、様々な想いや経験を与えてくれました。それは「富士登山」が圧倒的体験だからです。参加者は道中で次々起こる課題を自身に与え、それを乗り越えようと、自力で頑張ってみたり、友達に支えってもらったりされていました。頂上で見た御来光をスライドショーで見返した時、頂上で思っていた感情が甦り、自然と涙を流されていました。我々人間がどんなに良いものを提供しようとしても、自然の素晴らしさには絶対に勝てないと感じました。本当に皆さん、頑張られました。どうか、富士山から与えてもらった自信をこれからの人生に活かして欲しいです。「人は何故山に登るのか？そこに山があるから。」この言葉の意味を分かったような気がします。是非来年も再び富士山の頂上を目指しましょう！！（竹中 哲郎）

